

2016 年度 開発教育指導者研修 実践記録

【実践者】

授業者氏名	野村 佳世	学校名	岐阜県大垣市立上石津中学校
教科・科目	総合学習の時間	対象学年 (人数)	3年 B組 (25名)
実践年月日もしくは期間 (時数)	平成28年 10月 ~ 12月 (4時間)		

【実施概要】

1. 単元名(活動名) : わたしとあなたの未来					
2. 教科・領域との関連性 : 中学1年生の社会科の授業で「世界」を学び、2年生で「日本」を学ぶ。3年生では、社会に「参加」することの大切さを学ぶ。教科で学んだ地理的、歴史的背景を参考にしながら、総合学習の時間に「平和学習」をテーマとして、国際理解教育を行った。	3. 学習領域				
		1	2	3	4
	A 多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生	
	B グローバル社会	相互依存	情報化		
	C 地球的課題	人権	環境	平和	開発
D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加		
4. 単元の目標 (評価の観点を意識して設定) :					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・多文化を肯定的に受け入れ、意欲的に調べることができる。</li> <li>・世界の多様性を知り、平和な社会を築くために自分にできることを考えることができる。</li> <li>・開発目標や食料自給率などの基本的な単語の意味を理解し、話し合いの時などに使うことができる。</li> </ul>					
5. 単元の 評価規準例	(ア) 関心・意欲・態度	世界が抱える問題に興味を持ち、活動に取り組むことができる。			
	(イ) 思考・判断・表現	仲間の意見と比較しながら、自分の考えを表現することができる。			
	(ウ) 技能	複数の資料を参考にして意見を述べ、問題解決の方法を考えることができる。			
	(エ) 知識・理解	既習事項を生かして、基本的な単語の意味を理解することができる。			
6. 単元設定 の理由 (児童/生徒観、教材観、指導観)	世界が抱えている問題を自分事として、捉えることができるように、常に「世界」と「自分」の生活を振り返る題材を用意した。発展途上国に関する知識を持ち、問題解決するためには、どんなことが必要なのかを考える。その考えを「行動」に移すために、今すぐできることを仲間と話し合う場を設定した。				
7. 展開計画 (全12時間)					
時	ねらい	活動	教材		
1	・自分の「大切なもの」と海外の「大切なもの」を比較することで、多様性を知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の「大切なもの」を仲間に紹介する。</li> <li>・私が訪れた最も危険?! な国についての紹介～エルサルバドル～を見る。</li> <li>・エルサルバドルがどんな国か知る。</li> </ul>	・教員海外研修「エルサルバドル」の写真 (2015年)		

	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活を安全に過ごせない国もあることを知り、平和で安全な生活は何かを自分なりに考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地球家族の写真から、どの国が一番幸せか考え、ランキングする。</li> <li>「大切なもの」を知り、日本人との考え方に違いがあることを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地球家族</li> <li>「エルサルバドル」の人々の「大切なもの」表</li> </ul>
2 本時	<ul style="list-style-type: none"> <li>貧困の原因は何かを知り、自分にできることを考え、それに向けて、行動することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アフリカのサハラ以南で貧困の状況が続いている理由を考える。</li> <li>貧困の負の連鎖カードを並び替える。</li> <li>貧困の負の連鎖から抜け出す方法があるか考える。</li> <li>アフリカの発展のためにどんな支援ができるか考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際理解教育実践資料集</li> <li>*負の連鎖カード</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本食が海外からの輸入に支えられていることを知ることで、自分と世界がつながっていることを知り、自分の食生活を見直すことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「和食」、「日本食」のパズルを完成させる。</li> <li>「お弁当」の中に入っている食材が実際にどこからやってくるのかを調べる。</li> <li>答え合わせをする。</li> <li>食材にかかる二酸化炭素や人々の努力、願いを知る。</li> <li>海外からの輸入をストップしたらどんな食卓になるのか、献立を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「Mundi」JICA 国際協力機構 2016年1月号</li> <li>*食卓から世界を旅する</li> <li>動画 JICA 国際協力機構</li> <li>*世界はキミとつながっている</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミレニアム開発目標と持続可能な開発目標を知り、世界が抱える問題の解決方法を考えることができる。</li> <li>「自分ができごと」を自分の個性や特技、性格から仲間伝えてもらうことで、行動する力を付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「世界の少し困った問題」をいくつか調べる。</li> <li>問題が「ミレニアム開発目標」と「持続可能な開発目標」のどの項目に当てはまるかを考える。</li> <li>「ミレニアム開発目標」が「持続可能な開発目標」へ発展した理由を知る。</li> <li>「持続可能な開発目標」を達成するために、自分ができごととは何か考える。</li> <li>グループの仲間から自分ができごとを覚えてもらう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「Mundi」JICA 国際協力機構 2015年12月号</li> <li>*持続可能な開発目標 (SDGs) 私たちが未来をつくる</li> </ul>

8. 本時の展開			
※過程の網掛け部分は適宜変更下さい。			
過程・時間	学習活動	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
導入	<p>1 サハラさばく以南のアフリカの子どもたちの写真を見て、気づくことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・裸足で生活している。</li> <li>・学校ではノートがない。</li> <li>・水くみに行っている。</li> <li>・学校に行っていない。</li> <li>・カカオ農園で働いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活と児童労働の写真を見せ、自由に発表させる。</li> </ul> <p>&lt;評価規準&gt; ※思いついたことをつぶやいたり発表したりしている。(目視)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年齢が生徒と近いことに気づかせ、その思いを考え、課題化する。</li> </ul>	<p>国際理解教育実践資料集 *負の連鎖カード</p>
(50分)	<p>課題 貧困の理由について考え、そこから抜け出す方法を考えよう。</p>	<p>&lt;評価規準&gt; ※思いついたことをつぶやいたり発表したりしている。(目視)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年齢が生徒と近いことに気づかせ、その思いを考え、課題化する。</li> </ul>	
展開	<p>2 「貧困」から抜け出せない理由を個人で予想してノートに記述する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事がない。</li> <li>・読み書きができない</li> <li>・親が貧しい。</li> <li>・仕事がない</li> </ul> <p>3 貧困の理由を表したカードを使って「貧困のサイクル」について班(4人×5班)で考える。</p> <p>「貧困のサイクル」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校に行けない→読み書きができず、知識・技術がもてない→安定した仕事がない。安定した仕事に就けない→収入が少ない→衣・食・住が十分でない→病気になりやすい→子どもが家族のために働く→学校に行けない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・机指導で生徒の考えた貧困の理由を把握して(理由カード)の言葉に集約し、理由のつながりを「貧困のサイクル」と言い換えて示す。</li> <li>・(理由カード)を配付し、つながりを考えるように促す。</li> </ul>	
(50分)	<p>4 自分がこの「貧困のサイクル」の中にいたら、この悪循環から抜け出せるかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・抜け出せる</li> <li>・抜け出せない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループを巡回して、グループごとの交流の様子を価値付け、「理由カード」がサイクルになるように助言していく。</li> </ul>	
まとめ	<p>※仲間学びの時間</p> <p>5 アフリカの発展のためには、どのような支援があるとよいか個人の考えを交流し、班(4人×5班)としての支援の方法をまとめる。</p> <p>その後、全体交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・義務教育にする</li> <li>・給食の配給をする。</li> <li>・病院を無料にする</li> <li>・外国から支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人のみで「貧困のサイクル」を抜け出すのは、なかなか難しいことに共感する。</li> <li>・一人3つは支援の内容をノートに書いてから交流するよう促す。</li> </ul> <p>&lt;評価規準&gt; ※一人3つの支援内容をノートに記述している。(ノート記述) ※個人の考えの交流をもとにして班でまとめている。(机間指導)</p>	
(50分)			

	<p>6 仲間の意見からでてきた支援方法が有効な支援であるか表に表してみる。</p> <p>7 振り返り (まとめ) ・本時の振り返りを行い、まとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>貧困のサイクルを抜け出すには、生徒会で行っている募金活動やキャップ回収等で支援していく他にも義務教育の実施や技術の支援など「貧困サイクル」の理由そのものを変える取組が必要である。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キーワードを確認し、これを使ってまとめるように指示する。</li> <li>・キーワードを使い自分の考えや思いをまとめている生徒に発表を促す。</li> <li>・「理由そのものを変える取組」については、生徒のまとめから価値付ける。</li> </ul>	
<p>9. 本時の評価</p> <p>中学1年生の時に学んでいる「アフリカ州」についての話題を取り上げ、アフリカ州のサハラ以南では、まだまだ貧困地域があることを確認することができた。また、「負の連鎖カード」を用いて、貧困から抜け出せない理由がつながることが理解できた。貧困の脱出のためには、空論だけではなく、実際に自分たちができることを行動に移すことで、私も、相手も幸せな社会になることを確認することができた。</p> <p>データ化された資料など、生徒が出す意見についての裏付けや根拠となる資料がなかったので、根拠をもとに意見を述べたり、相手を説得させたりする必要があると感じた。</p>			
<p>10. 他教員・学校内等で国際理解教育・授業実践を広める取り組み</p> <p>授業参観や公開授業の時には進んで、授業を公開するようにして、「国際理解教育」のあり方を代表して訴えることができた。また、中学3年生の総合的な学習の時間のテーマである「平和学習」では、何度も「持続可能な社会」や「持続可能な開発目標」という話やキーワードを生徒に伝えたり、掲示板に貼り出したりすることで、学校内で国際理解教育やESDの発展を広めることができた。</p> <p>実践例を市内の教員と交流することで、新しいアイデアを付け足したり、見直したりする場を持つことができた。</p>			

【自己評価】

<p>11. 苦勞した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参考文献の写真が古いこともあり、現在の状況を正確に掴ませることができなかった。正確に現状を伝えることが必要であると感じた。</li> </ul>
<p>12. 改善点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間に限りがあり、続けて学ぶ時間の確保ができなかったため、1時間1時間、単独の授業になってしまった。つながりを持って学習できると、生徒の学びや思考がうまくつながると感じた。</li> </ul>

<p>13. 成果が出た点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入では常にアイスブレイクを用いることで、他の授業とは違い、緊張がほぐれて、仲間と共に活発に交流することができた。</li> <li>・アクティブラーニングを用いることで、課題について、自ら学び、自らの問題としてとられる生徒が多くなった。生活の記録等に振り返りを書いたり、平和な社会の実現について考えたりする生徒が多くなった。</li> </ul>
<p>14. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「エルサルバドル」という国について初めて知りました。日本と似ているところもあり、おもしろいと思いました。人々の生活が危険にさらされている現状を知ることもできました。それでも、「大切なもの」は「家族」と答え、私たちと同じ世代の子たちが一生懸命に生きている様子も分かりました。(第1回)</li> <li>・日本の食事は、多くの国々に支えられて成り立っていることが分かりました。輸入をやめてしまったら、日本で自給自足できる量が少なく、自分の家の食卓がつまらないものになると感じました。(第2回)</li> <li>・日本食は多くの国やそこに生きる人々によって支えられていることが分かりました。今自分にできることは、好き嫌いなく、食べることで、日本の裏側で食べられずに困っている人がいることを知り、できることをしてあげることだと思いました。(第3回)</li> <li>・持続可能な開発目標が多くあることに驚いた。私たちの知らないところで、国際機関が平和を守ろうといろいろな考えを出していることが分かりました。自分たちが知らないではなく、目標の上に生活が成り立ってよい生活ができているのだと知るべきだと思いました。(第4回)</li> </ul>
<p>15. 備考 (授業者による自由記述)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アクティブラーニングを行うことで、生徒の授業態度にも変化がみられた。授業に熱心に取り組む生徒が増え、自分の生活を振り返る姿が見られるようになった。また、人権の観点からも大きな成果があり、「相手の意見を最後まで聞く」、他者意識も高くなったように思える。</li> <li>・授業者として、具体的な数値や資料の提示がまだまだ弱い。題材を取り上げる際には、複数の資料を用いることも大切だが、厳選された明確な資料選びを行い、自分の専門である社会科や英語科の授業にも生かしていきたいと思う。</li> </ul>

参考資料：

「Mundi」JICA 国際協力機構：東京，2015，2016

「地球家族」ピーター・メンツェル・フェイス・ダルージオ 1994年 TOTO 出版

「世界はキミとつながっている」動画 JICA 国際協力機構

「負の連鎖カード」国際理解教育実践資料集